

外国の方との交流会

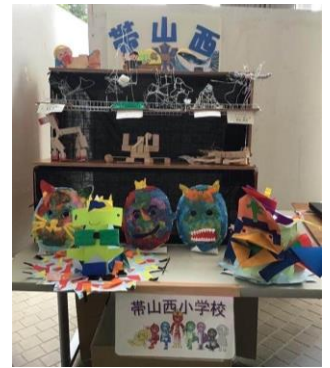
今週5日(水)、3年生は熊本市の国際交流課から4人のゲストを招いて、国際交流会を開きました。ゲストの出身国は、それぞれカナダ、韓国、中国、ドイツの方々でした。交流会では、ゲストの祖国の文化の紹介がありました。また、子供たちからの質問タイムもあり、異文化について学びを深めた時間となりました。子供たちの学んだ感想を見てみると「中国はパンダが人気でいっぱいいることがわかりました。カナダは大きいタワーがいっぱいあって、地震が無いことに驚きました。このように日本とは全然違うことがいっぱいありました。」「韓国は、あいさつが『おはよう』『こんにちは』『こんばんは』が全て『アンニョンハセヨ』だと知りました。」「ドイツでは、パンを食べることが多く、日本のように甘いパンは殆どないということがわかりました。」と書いていました。また、交流会を通して伸びた心を聞くと「🌐 帯西ブルーの心が伸びました。わけは、交流会ではいろいろな国の人と仲良く話すことができました。今は戦争とかが起きているので、仲良くすることでそれを無くすことができると思いました。」と述べてくれました。充実した交流会になったようです。



熊本市小学校造形展について

熊本市図画工作・美術教育研究会主催の、造形展が行われています。この造形展は、小学校と中学校が立体作品を中心とした展示会で、毎年開催されています。帯西でも、子供たちが図工の時間に一生懸命制作した作品の中から、各学級代表の作品が展示されています。造形展は、以下の通り開催中です。

開催期間: 令和7年2月4日(火)～2月11日(火)※月曜休園日
開催時間: 9:00～17:00(入館は16:30まで)
開催場所: 熊本市動植物園 花の休憩所



今年の干支にまつわる話

朝のボランティアで落ち葉掃きをしていた子供が「キャッ」と悲鳴にも似た声を上げたので見に行くと、ヘビの形に似た木のツルを見て驚いたそうです。なぜこのように、ヘビを見て驚く人がいるのか、その理由は解明されつつあります。

霊長類の祖先である小型哺乳類は、樹木の上で生活をしていて、それを捕食するのは、ヘビだったとされています。最近の科学では、一度もヘビを見たことがないサルがヘビの写真を他の動物よりも先に見つけたり、人の赤ちゃんからヘビの写真に強く反応する脳波が検出されたりしています。しかも霊長類の祖先は、進化の過程でヘビのクネクネとした動きより、ヘビのウロコを見つけられるように視覚システムを進化させてきたと、昨年11月の科学誌に掲載されています。ヘビを見ると恐怖を感じ、生き残ることができた先祖のおかげで、今の私たちがいるのです。

